



vol.96

2025年  
2月28日  
発行

日本山岳会

# 「高尾の森」通信



— 広針混交の豊かな森づくり活動 —

会員数：個人169名 法人11社  
(2025年1月末現在)

2024年度の植栽地「板当」は東側の景色が広がり、  
空気が澄んだ晴天の日は遥か遠く100kmほど先の筑波連山を望むことができます。  
ちょっとした絶景スポット、Nice！



2024.12.14 定例作業日より



ヒレンジャク

体長は18cmほど。

「冠羽」とよばれる先端がとがった頭頂部の長い羽毛が特徴的で  
オスとメスはほぼ同色。

しっぽの先端は赤い色をしており緋連雀の名前の由来ともなっている。

日本には冬鳥として渡来し日本中で記録はあるが

個体数は少なく4～5年に1度、群が渡来することが多い。

絵：横川 信由

<http://JACtakao.net>



February 2025 01

# 高尾の森づくりの会 次期5か年計画 案

協定期間：2026年4月1日～2031年3月31日

フィールド担当 早川憲也

高尾の森づくりの会では東京神奈川森林管理署と「ふれあいの森における森林整備活動に関する協定書」を締結していますが、2026年3月で契約満了となるため、新たな協定書締結に向け、現在検討を進めている次期5か年計画の重点項目についてご紹介いたします。

2026年4月から始まる次期5か年計画では、現在の5か年計画と同じ協定区域にて同様の作業計画を申請しますが、現在の5か年計画では出来なかったことについても色々取り組んでいきたいと考えています。

## 小下沢エリア

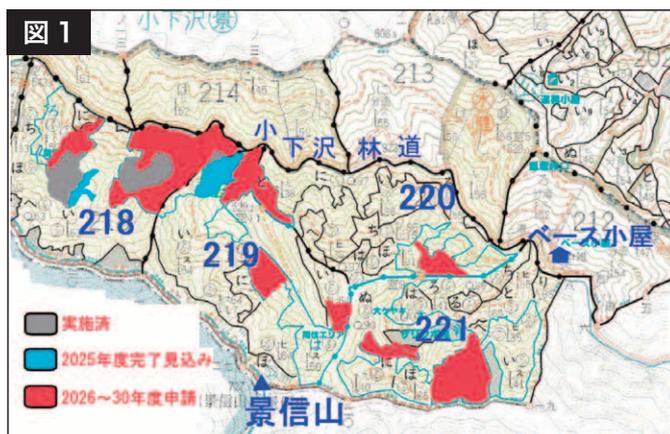
協定箇所

218 ろ・は・と林小班, 219 い～は林小班,  
220, 221 林班

面積合計 = 98.3ha

過去25年を費やして整備してきたザリクボ沢周辺の植栽地ですが、直近の10年間は主となる作業を板当にシフトしたため荒廃が始まっています。この課題を解決するために、ザリクボ沢周辺に対し新たな間伐の申請を行います。

間伐は現在実施している218、219林班を継続申請し、新たに220、221林班の一部を申請します(図1参照)。そして間伐により発生した伐倒木を使用し、協定区域全域に対し歩道の整備を実施します。歩道が整備されれば作業エリアの往来が容易になり、新たなギャップ地の発見と植樹が可能となります。



間伐申請林小班

林班	小班 (面積)
218	ろ (4.83ha) ・ は (7.46ha) ・ と (0.56ha)
219	い (19.56ha) ・ ろ (4.38ha) ・ は (5.00ha)
220	い (9.31ha) ・ と (1.06ha)
221	い (7.02ha) ・ に (2.63ha)

## 板当エリア

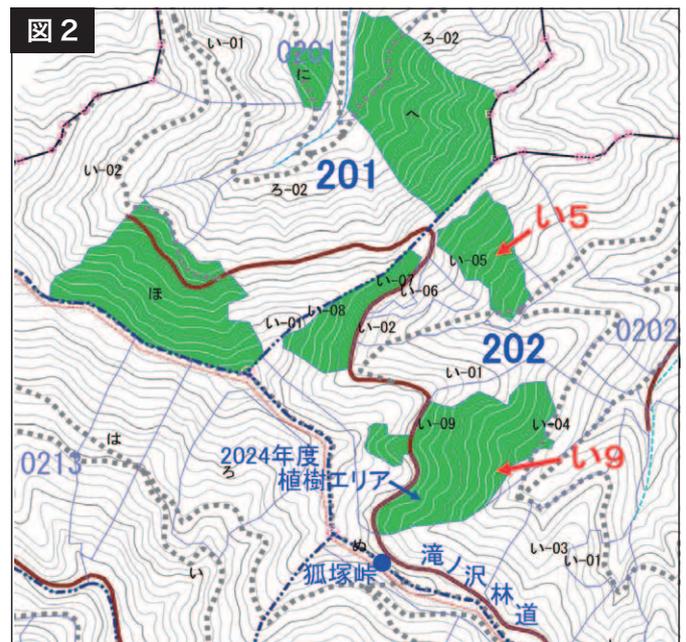
協定箇所

201 に・ほ・へ林小班,  
202 い5・い6・い8・い9林小班

面積合計 = 14.63ha

現在の5か年計画の目標値が高く、作業に追われ担当したメンバーには色々な経験の機会が少なかったと反省しています。次期5か年計画では、図2に示す「202林班い9小班」の現5か年計画の植樹予定を次期5か年計画に一部シフトし、ゆとりをもって活動出来るように見直します。

なお、板当の人工林も長年放置され荒廃しておりますので、植樹だけではなく協定区域全域に対し、除伐・ツル切、間伐、そしてギャップ地への広葉樹の植樹による再生といった一連の流れを視野に入れ計画します。



間伐申請林小班

林班	小班 (面積)
202	い9 (2.72ha) ・ い5 (1.07ha)



# 今年の紅葉はちょっと違う

2024.11.23 紅葉鑑賞会

鈴木泰史

高く澄み渡る青空の下、凜とした朝の空気が広がる高尾の森で今年も紅葉鑑賞会が開催されました。紅葉した木々の赤、黄色と常緑樹の緑、という3色が一度に見られるのは日本だけの自然の美しさだと聞いたことがあります。だからでしょうか、古くは奈良時代から紅葉を見るために山や溪谷に行ったり、紅葉を見ながらお酒やご飯を食べたりと、色々な方法で日本人は紅葉を楽しんでいたとか。高尾の森ではどんな楽しみが待っているのでしょうか。

各班に分かれて点呼を取った後、まずはザリクボ滝を目指してゆっくりと歩き出します。いつもは色付く木々を楽しみながら進むのですが、今年はちょっと違ってました。「お母さん、葉っぱ見つけたよ〜」早速子供たちの

声飛び交います。上を見たり下を見たりけっこう忙しく。そう、今年はさまざまな葉っぱを集めてくるというイベントが企画されていたのです。

滝をバックにみんなで写真を撮り、今日一番の急登を上ると、開けた見晴台に出ました。全員で「ヤッホー」すぐに「ヤッホー」が返ってきて「あっ、生まれて初めてヤッホーが返ってきた!」と子供たちは大喜びです。

さらに進むと、道を斜めに遮る大木が。それを乗り越えるといよいよ最高地点の巨木の森に到達します。ここからは下りになるのですが、ただ下りだけではありません。昔の植栽地を下りながら再び葉っぱ集めが始まりました。「これは何の葉っぱ?」「何だろうね?」「これはね〜」諸先輩の解説に「へえ〜」と子供たちが感心しつつ「も

う袋がパンパンだよ」こんな家族の会話がずっと続き、葉っぱ集めはとても楽しい企画でした。

そして気付けばあっという間に沢沿いの道に戻ってました。小屋の前では豚汁、BBQからフルーツポンチ、ぜんざいや、ビールにジュースなど、お楽しみがいっぱい待っていました。友人や家族との会話もはずみ、木工品や丸太切り、木登りなども楽しみながら、あっという間に時間が過ぎて行きました。

こうして、みんなで準備し、みんなで楽しんだ紅葉鑑賞会は今年も大成功で幕を閉じました。来年はどんな企画が待っているのか、とても楽しみです。

葉っぱ集め表彰式



# ベース小屋ウッドデッキ改築の記録

ものづくり班 川久保芳男

デッキ  
復活

DIY

大作戦!



既存のウッドデッキは、ベース小屋建設に伴い当会員の手で2006年4月に造られた。その後数年前デッキの独立柱、床板を支える大引きおよび床板の補修工事がなされたが、昨年9月に有志数名で既存デッキの床板を剥ぎ取り、床板、大引き、独立柱等の劣化調査を行ったところ、大引きの腐朽が激しくデッキとして危険な状態であることが判明した。その結果、デッキの一部を補修ではなく全面改築することとなった。

この改築工事の施主は当会事務局長、請負人は棟梁：川久保とその他ものづくり班の精鋭(?)たちという体制で行われた。これは、ものづくり班とはいえ素人集団の2か月におよぶデッキ改築の記録である。

## 既存デッキの劣化原因を推察し、劣化防止を考慮した対応は次の通り。

- ① デッキの地盤の湿気や雨水が独立柱に浸透し独立柱を腐らせる
  - ▶ 地盤の湿気が直接独立柱に影響しないよう防水対策として独立基礎（コンクリートブロック）と独立柱の接続部にコーキングを行った
- ② 鉄製床板ビスが錆び、木材に雨水が浸透し腐らせる
  - ▶ 床板ビスを雨水で錆びないステンレス製を使用した
- ③ 防水効果が半減した木材に雨水が浸透し木材を腐らせる
  - ▶ 今後、数年に一度程度に防水ペンキ塗りを推奨

**製作デッキの概要**（既存ウッドデッキと同様） 幅：6m、奥行き：1.8m、床高：65cm、階段3段

### 工事概要

- 床板は長さ1.8m、幅10.5cm、厚さ3cmの板60枚使用（既存ウッドデッキと同様）
- 解体作業と解体材の分類（錆びたビスを取り除き、再利用できる材と廃棄材の分別）
- 加工木材のシロアリ予防・防腐塗料塗布
- 整地作業、独立基礎 全て（15ヶ）が水平に設置可能な締固め作業
- 独立基礎に独立柱設置  
独立基礎と独立柱の納まり方法として「ほぞ」（独立基礎に凹、独立柱に凸）の形状を用いて、独立基礎の羽板と独立柱をボルトで固定した
- 独立柱の上に3mの角材を相欠継ぎという継手方法で6mにした大引きを3本設置した
- 6mの大引きと床板をステンレス製ビスで固定
- 階段の修繕：既存階段の踏み板幅を拡大して上り下りを楽にした

9月 21日(土) 木材カット・カンナ仕上げ  
既存デッキ劣化調査



改築前：既存のデッキ

10月 3日(木) 床板、大引き、独立柱の  
シロアリ予防・防腐塗料塗布  
既存デッキ劣化調査



10月 10日(木) 既存デッキ解体



あちこち腐朽、  
最悪!

**10月** 大引き材の  
継ぎ手接続部の加工作業  
**17日(木)** 地盤整地後の独立基礎の設置



**10月** 独立柱仮設置  
木材加工  
**24日(木)** シロアリ予防・防腐塗料2度塗り



**10月** 大引きの仮組み・調整  
**31日(木)**



**11月** 大引きの仮組み・再調整  
独立柱との固定  
**7日(木)** 床板仮置き



仮組みのはずがもう固定してる?



なんとなく先が見えてきた?

**11月** 床板ビス止め  
幕板取付  
**9日(土)** 独立基礎と独立柱の接合部コーキング  
**14日(木)**



ビスを打込む大塚代表



階段を補修する「ものづくり班」のミスター宮本



縁の下の力持ち 仁藤事務局長

遠目に見るとそれなりの出来!?



デッキの改築工事は、2024年9月21日(土)からものづくり班の活動日(毎週木曜日・第三土曜日)を中心として約2ヶ月間で行った。作業内容の大半である木材加工、防腐塗料塗布等は手際よく対応できたが、独立柱と大引きの組上げがうまくいかず、設置作業を何度もやり直したことは苦い体験であった。

ともあれ、大勢の人たちで「あーでもない、こーでもない」と言い合いながらの作業と毎回の作業後の楽しい会食で、あっという間の2か月間だった。アラはすべて隠し遠目に見るとなかなかの出来!?! 是非、床板のステンレス製ビスの配列を見て下さい。美しいですよ!



完成後の記念撮影

# 11月活動日記

- これまで使用していたベース小屋の発電機が故障し、発電機が新しくなりました。これで電気が使えるようになり安心、ホッ！
- 板当では棘のある木が多く、除伐作業要注意です。



新しい発電機が来たあ～



今月の体操のお兄さん

イチ・ニッ・サン・シッ……



B班の精鋭たち



棘、スゴッ！



斜面を登るのも一苦労

ここで本当に植樹できるのだろうか……



## 高尾599ミュージアムで2つのイベントに出展

小木曾裕子

一つは11月2日～4日に開催された「秋のTAKAO 599祭」の丸太切り体験。連日近隣の若い家族連れ等で行列ができて多くの方に体験していただくことができました。

もう一つは恒例の「高尾の森と生き物たち展」。11月16日～24日に開催し定点カメラの動物映像の上映をはじめ木工品等を展示。子供達には積木やパズルが大人気でした。

いずれのイベントも高尾の森づくりの会の活動をアピールする良い機会となりました。



## もくじ

次期5年計画案	02
紅葉鑑賞会	03
デッキ復活DIY大作戦!	04
11月活動日記	06
高尾599ミュージアム	06
12月活動日記	07
1月活動日記	08
伐木作業	09
美林見学会	10
三宅島緑化再生プロジェクト	10
ニュージーランドトレッキング紀行	11
新会員紹介	11
事務局からのお知らせ	12

# 12月活動日記

- だいぶ寒くなりました。板当では日陰は凍えるほど寒いですが、日の当たるところはポカポカです。
- 初めての場所での大忘年会！盛り上がりました。皆さんご満足いただけたでしょうか。1年間お疲れ様でしたあ～。



ヘルメットの天日干しお疲れ様です



今月の体操のお兄さん



機械班、やまびこ号と共に出動！

ポカポカの場所で

みんな揃って

ランチターア～イロ



大忘年会！



よぉ～おっ！

# 2025 1月活動日記

- 1年の始まりは山の神への安全祈願から。
- 板当の植栽地整備、植樹祭まであと3か月。終わりが見えない……、間に合うだろうか。
- 三ノ沢上部の都有林では植樹した苗がツリーシェルターに守られ、順調に育っていました。



お神酒は一人ひとつです

C 班出発前

今月の体操のお兄さん



みんな下向いてるけど、反省しているわけではありません



下山後は？

臨時出店のカフェでコーヒーのサービス!



# 伐木作業

松隈茂

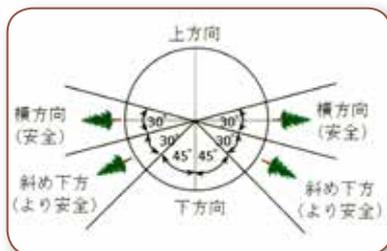
当会では、過去には4月の植樹から始まり、夏には「下草刈り」その後「間伐」→「新たな植栽地の整備・地拵え」→「植樹」というサイクルで年間を通して様々な作業が行われていましたが、ここ数年は一年の作業がほぼ植樹に向けた新たな植栽地の開拓・整備が中心となり、新会員の増加と共に間伐の未経験者が増えてきていることから、今回「伐木作業」について紹介いたします。

伐木作業は林業労働災害で最も事故が起きやすい危険な作業で、細かく紹介すると1ページでは説明しきれませんが、ここでは伐倒の基本的なことだけを紹介します。今後の実際の作業での参考にしていただければと思います。

## 1 伐倒方向の選定

伐倒方向は、安全で確実な方向を選択します。対象木の傾き、枝の張り具合など立木の状態を、また、隣接木との隙間、枝絡み、岩など、周りとの関係をよく観察し方向を決めます。

- ◆ 一般的には斜面の斜め下方か横方向とする。
- ◆ 横方向は重心が若干谷側にあり重心を移動させるクサビ、ロープによる牽引等が必要になる。
- ◆ 下方は重心に押され容易に倒すことができるが、追い口切りが十分でない中で倒れ始め木が裂ける危険がある。
- ◆ 上方向の伐倒は倒れた木の元口が跳ね上がったリ、斜面を滑り落ち作業者を巻き込む危険があるため、基本的には行わない。(国有林の作業基準では上方向伐倒は禁止作業)



安全な伐倒方向

## 2 退避場所の選定

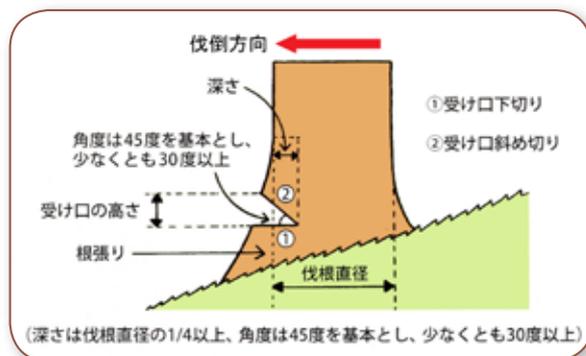
木が倒れ始めたら、その下敷き、跳ね飛ばされたりしないように必ず退避します。退避場所は伐倒木からの危険を逃れるため、伐倒方向の反対側の斜面の上方で3m以上離れた安全な場所とし、退避に支障となるものは取り除いておきます。

## 3 伐倒準備作業

切り始める前には、作業範囲内の作業の支障となる石、枝、灌木、枯葉など、また倒れたときに当たる丸太、灌木、岩なども取り除きます。また立木の樹高の2倍の範囲内に他の作業者がいないか確認して、いたら退避させます。

## 4 「受け口」切り

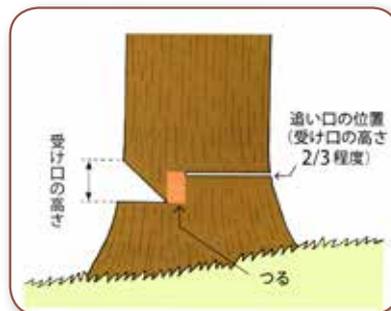
受け口の下切りはなるべく低く(山側の地際が標準)水平に、深さは伐根直径の1/4～1/3、斜め切りは45°を基本(少なくとも30°以上)として受け口を作ります。その際、会合線(下切りと斜め切りの終わりの部分)を一致させ、つる(受け口と追い口の間に残される部分)の働きを確実にさせるようにします。また会合線と直角の方向が倒れる方向なので、受け口が正しく伐倒方向を向いているかどうか、ノコなどを当てて確認します。



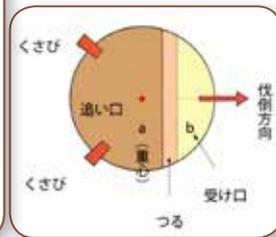
受け口切り

## 5 「追い口」切り

追い口切りは受け口の高さの下から2/3程度の位置を水平に切り込みます。深さはつるの幅が伐根直径の1/10程度とします。つるは木が倒れ始め、つるが曲がりながら切れるときにドアの「ちょうつがい」のように、伐倒方向を規制し倒れる速度を調節するという大事な働きをしています。倒れ始まったらすぐに当初決めた退避場所に待避します。



追い口切りの位置



くさびと伐倒方向

## 6 その他

間伐作業では、かかり木の発生を避けるように細心の注意を払う必要があります。しかしながら、間伐は林の中の木を抜き切りするため、かかり木の発生が避けられません。かかり木処理は危険を伴う作業であるため安全に行う必要があります。かかり木を外すために、一回転させる、元口を動かす、適切な方向に引っ張るなどの道具の使用が欠かせません。危険な処理方法として、かかられ木の伐倒、浴びせ倒し等が禁止されています。

<画像出典>

林業・木材製造業労働災害防止協会 HP より  
<https://www.rinsaibou.or.jp/>

<参考資料>

森林環境リアライズ HP 「チェーンソーを用いた伐木作業安全マニュアル」  
<https://www.f-realize.co.jp/batsur06/>



2024.11.6  
美林見学会

猪股和子



C.W.ニコルさんの思いを繋ぐ

## 「アフアの森」を訪ねて

日本本来の美しい自然環境を取り戻したいと荒れ果てた森を自ら買い取り、1986年から始めたニコルさんの森づくり。それは、アフアの森財団と多くの支援により現在も受け継がれ、森は広がりつつ生態系が甦りつつあり、今回はその豊かな森を体感できる機会となりました。

アフアセンターでは、大きな栗の木とその根元に広がる立派なクリタケが出迎えてくれました。最初に室内で、森の成り立ちとその活動目的、活動内容、等などの説明を受けた後、森を案内して頂きました。爽やかな風の通る空間をもった太陽光の届く明るい秋色の森で、歩く道には木の根を痛めない様に木チップが敷かれ落ち葉でふかふかしていました。当日も小エリア内のコナラ、ミズナラの植栽木の伐木作業中でした。密度の濃くなってきた2次林部分に林床まで光を入れ下層植生を豊かにするためとのこと。藪

刈り作業は一部は鳥たちの住処のために残し、下草刈りは重要な幼木や種



を残すため確認しながら作業しているとのこと。生物の多様性あふれる森を取り戻すために、整備作業も比較検討調査しながら、より良い方法を探りつつ行っているのだなと思いました。また、ナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシの侵入確認した木は伐採と燻煙処理し、防除も実施とのこと。そこを利用するフクロウの営巣他10種類以上生物調査も継続してなされ森づくりの評価としています。

100年後の豊かな森のために、森を知り育て、その人材を育て、森で心をはぐくみ、森の存在意義を伝え、森を大きくしていき、世界に繋げ、森と生きていくための今できる活動を実践している。自身にできる事は何かと問われた見学会でした。

## 初めての三宅島、力強く蘇っていました 若村勝昭

2024.10.26 ~ 10.28  
三宅島緑化再生プロジェクト

今回は26回目の三宅島プロジェクトとのこと。9名の参加者中、新規の参加者は私ひとり、さらには年齢的にも心配で少し不安な気持ちで橘丸(たちばなまる)のタラップを降ります。しかし下船後はチャーターバス、海岸のホテルの部屋割り、仮眠後の朝食、身支度しての集合と流れるようにスケジュールは進み、刈払機・二丁差し・ヘルメットも万全に準備され、三宅島観光協会さんとサポートの伊豆緑産の方と一緒に早くも9時半過ぎには今日の現場「甕(こしき)の穴」ジオスポットに到着。

ここは火山噴火口跡の園地でベンチとテーブルがあり休憩できる設備がありますが、今は身の丈を超える茅やササ、ブタクサ等が茂り足の踏み場もありません。作業はまずは刈払機組が活躍。人力組は手鎌での草刈りと刈った草や枝の集積。やがて曇天から大粒の雨に代わり雨具を着ての作業となりました。一旦下山しての昼食をはさんで、3時過



ぎには荒れた「甕の穴」はすっかりきれいになり、これならこどもも安心して遊べそう。朝の荒れた風景と一変しました。



翌日は雨の中を七島展望台(旧レストハウス跡)へ行き、以前の植栽地の草刈りや雑木の除伐です。植栽地の密生した草をかき分けるとヤブツバキ・サカキ・タブ・シイが元気に育っています。地味の厳しい火山灰地と海風の中で健気に伸びた若木に思わずエールをお送ります。



午前中の作業を終わり伊豆緑産さんと二丁差しの手入れ後、再び伊ヶ谷港から乗船。出港する橘丸からの三宅島は雨に隠れましたが、来年も育った若木を見たいものです。

トレッキング開始地点



マッキノン・バス付近



トレッキング終点



# ニュージーランド トレッキング紀行

守永日出夫

昨年12月、會田さん・大森さんと3人でニュージーランドのミルフォード・トラックを歩いた。ニュージーランド南島の氷河が削ったU字溪谷から1,154mの峠を越え海が深く入り込んだフィヨルドの海岸まで53.5kmを3泊4日で歩く、「世界で最も美しい散歩道」と形容されるトレッキング・ルートだ。ガイド付きウォーク50人、個人ウォーク40人と毎日の入山人数を制限し、この島固有の生態系保全に配慮されたトレイルだ。

初日(12/8)はクィーンズタウンからバスとボートを乗り継ぎ5時間、湖岸から47名の仲間(日本人6、韓国人10、残りは欧米他、平均年齢60歳前後)がトレッキングを開始。女性ガイド4名が参加者のペースに気を配りながらサポート。この日は1.6kmの足慣らしで宿泊ロッ

ジへ到着、散歩気分を楽しんだ。しかし二日目は朝から雨、この雨に悩まされた3日間となった。南極ブナの原生林、シダ、苔が繁茂する緩やかな溪谷沿いを16km登りロッジへ。雨のためか皆歩くスピードが早く、我々にとっては集団の中ほどに位置するのがやっとだ。三日目は行程中のハイライト、峠越えだが、雨中700mの登り、1,000mの下りは、写真を撮る余裕もなく集団についていくのに必死だった。峠では20m以上の強風と雨にさらされ厳しい体験となった。四日目も朝から激しい雨、一時は全員ヘリコプターによる搬送も準備されたが、出発を2時間遅らせたことで天候も回復し、残り21kmのトレイルを無事歩くことができた。ニュージーランドの豊かな自然に触れながら仲間たちと4日間のトレッキングは私にとって得難い時間だった。

## 新 会員紹介



阿部このみです

### 森の保全の 活動をしたいと思い

12月に入会しました 阿部このみ と申します。

現在、川口市に在住しており、旅行や野球観戦(ヤクルトファンです)などを趣味としています。この会の活動は、同じ会社の方を通じて知りました。私は、高尾には学生時代の2年間、楽しいキャンパスライフを過ごした思い出があり、是非この地で何か貢献できることやしてみたいと思い、門を叩いた次第です。とはいえ、植樹の活動をするのは初めてで、道具の使い方がわからない、ニョロニョロとしたものが苦手、山道の歩き方に慣れていないなど、不安なことがたくさんあります。なるべく早くコツを掴み、自然を楽しみながら安全に活動ができるようになりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

木村眞知子・木村藍生です



### 山を守りたい、 そんな気持ちから

縁あって友人からお誘を受け、昨年末に入会しました。瀬戸内に育った私(眞知子)は海も山も比較的生活の中にあり、四季を通じて山に触れ、日曜は母とお弁当をもって近くの山に行くことが習慣でした。

関東に転勤後はほぼ人がいない山から、高尾山、御岳、大山、塔ノ岳…と多くの山に行きましたが、同時に鬱蒼とした森林、崩れた山肌や倒木まみれの谷には心が痛みました。整備をしないと山が死んでしまう…と思っていた時にこの会を知り、四季を通じて元の山に戻す活動は鎌なら稲刈りで私たちでも慣れてる!と思い参加しました。植樹した苗が地面に大きく根を張り大雨にも負けない木になるまでには長い年月が必要であり、自身で大樹になる頃を見届けることはできませんが、この活動が絶えることなく続くように一緒に会員になった娘がその役割を担ってくれるといいなと思う今日この頃です。

## 活動記録

- 11/2-4 高尾599ミュージアム「秋のTAKAO599祭 森の学校」  
(会員延べ14名、来場者266名)
- 11/5,6 美林見学会「アフンの森」  
(長野県上水内郡信濃町、6名)
- 11/9 定例作業 (会員48名、体験2名)
- 11/16-24 高尾599ミュージアム「高尾の森と生き物たち展」  
(会員延べ53名、来場者1414名、丸太切り体験408名)
- 11/23 紅葉鑑賞会 (会員40名、法人30名、一般14名)
- 12/14 定例作業 (会員58名、法人21名)  
忘年会 (会員50名)
- 1/11 定例作業 (会員50名、法人2名)

## 活動実績と予定

- 2/8 定例作業
- 3/8 定例作業
- 3/24-30 高尾599ミュージアム  
「高尾の森と生き物たち展」
- 4/12 定例作業
- 4/13 植樹祭
- 4/20 京王親子森林体験スクール

## 入会：ようこそ

阿部このみさん、木村眞知子さん、  
木村藍生さん

## 退会：お疲れ様でした

十河三郎さん、辻川光雄さん、  
三尾幸吉郎さん

## 2025年度

## 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。

## 1. 納入には郵便振替をご利用ください。

会報96号に同封した「ゆうちょ銀行振込取扱票」にて納入ください。  
払込み料金は無料です。

- 口座記号番号：00160-3-688239
- 加入者名：日本山岳会「高尾の森づくりの会」

## 2. 他の金融機関からの振込の場合

- 銀行名：ゆうちょ銀行019 (ゼロイチキュー) 店
- 当座預金 口座番号：0688239
- 口座名：日本山岳会「高尾の森づくりの会」

## 3. 納入期日 3月21日(金)

3月末に一括ボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、  
期日までの納入にご協力をお願い致します。

## 4. 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
賛助会員	3,000円	なし	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注1：他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を振込票に記入して連絡ください。重複して加入する必要はありません。

注2：機械作業者登録をしている方で、継続しない方はその旨を振込票に記入してお知らせください。

## 幹事会報告

(詳細はホームページ会員専用ページを参照ください)

## ◆ 11月

- 協議事項 25周年記念イベント対応に関して、他
- 報告事項 研修プログラムの計画と進捗、  
10/20 猿投の森 20周年集会出席  
報告、他

## ◆ 12月

- 協議事項 2025年次総会日程、作業小屋の  
燃料搬入担当について、他
- 報告事項 次期5か年計画案、各種イベント  
の実施結果報告、他

## ◆ 1月

- 協議事項 2025年4月植樹祭計画、他
- 報告事項 官庁対応状況、今後のイベント予  
定、助成金申請、他

大塚代表の  
活動で見つけたいい話

石橋さん、長い  
間出納の担当をしてくださり本当にありが  
とうございました。そして、新しい出納担  
当の中林さんと京王親子支援チーム参加  
の酒井さん、どうぞよろしくお願ひします。  
当会活動への女性のお力添えの広がり  
に心より感謝申し上げますとともに、と  
ても嬉しく思っています。

## 編集後記



会報誌の編集作業を始めて丸3年。だいぶ慣れてきて、昨年3月に退職し時間ができたこともあり余裕をぶちかましていましたが、今年1月からアルバイトを始めたら今度は編集期限までの時間が無くなり大慌て！おかげでせつかくの休日も部屋に籠りきり・・・、今回はちょっと焦りました。[大島徹]

